

ひと

バリアフリー映画鑑賞推進
団体「シティ・ライツ」代表

ひら つか ちほこ
平 塚 千穂子 さん (44)



「セリフと映像がイメージできる説明を入れた『音声ガイド』があれば、目が見えなくても映画がみられます」

「目が不自由でも映画をみたい」との思いにこたえたいと2000年、当月上映されていた映画の音声ガイドを試行錯誤しながら1人で作成。その後、音声ガイドを一から

研究し仲間を集め01年「シティ・ライツ」を設立しました。「誰でも楽しめる映画館」「映画館を障害者と健常者の出会いの場にして一緒に笑いたい」。いつしか仲間たちの夢は自分たちで映画館をつくりたいと、広がりました。映画館づくりへむけて、内装工事や音響・映写など必要

設備を整えるための募金が今年5月から集まりました。9月に音声ガイドで映画が楽しめる「シネマ・チュプキ・タバタ」が東京・北区にオープン。「チュプキ」とはアイヌ語で自然の光を意味します。自然と一体になって和らいでほしいとの思いです。

徹夜で音声ガイドを調整する「頑張り屋」。しかし、落ち込んで親や友達にも相談することができず答えが見つからなかったときは、映画を通してさまざまな人生をみるうちに気が紛れて、心が安らぎ救われたといいます。

今秋、視覚障害者の立場から感謝の意を表したいとの趣旨で贈られる「ヘレンケラー・サリバン賞」を受賞。「障害など関係なく同じ映画をみて感想をシェアし、心の会話ができる映画館にしていきたいです」

文・写真 打保 哲広